

北海道立中央農業試験場  
農芸化学部土壌改良科

昭和 47 年 度

# 地力保全基本調査成績書

〔石狩北部沿海地域 石狩町〕

北海道立中央農業試験場

73

## 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によって充分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剥奪要因もあってその地力は消耗低下しつつある。従ってこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もって当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和47年度に行なった9地域13市町村をとりまとめたもので、ここにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和48年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田 忠 雄

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100 ha以上の集団になっている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当っては、夫々下記の資料に基づいた。

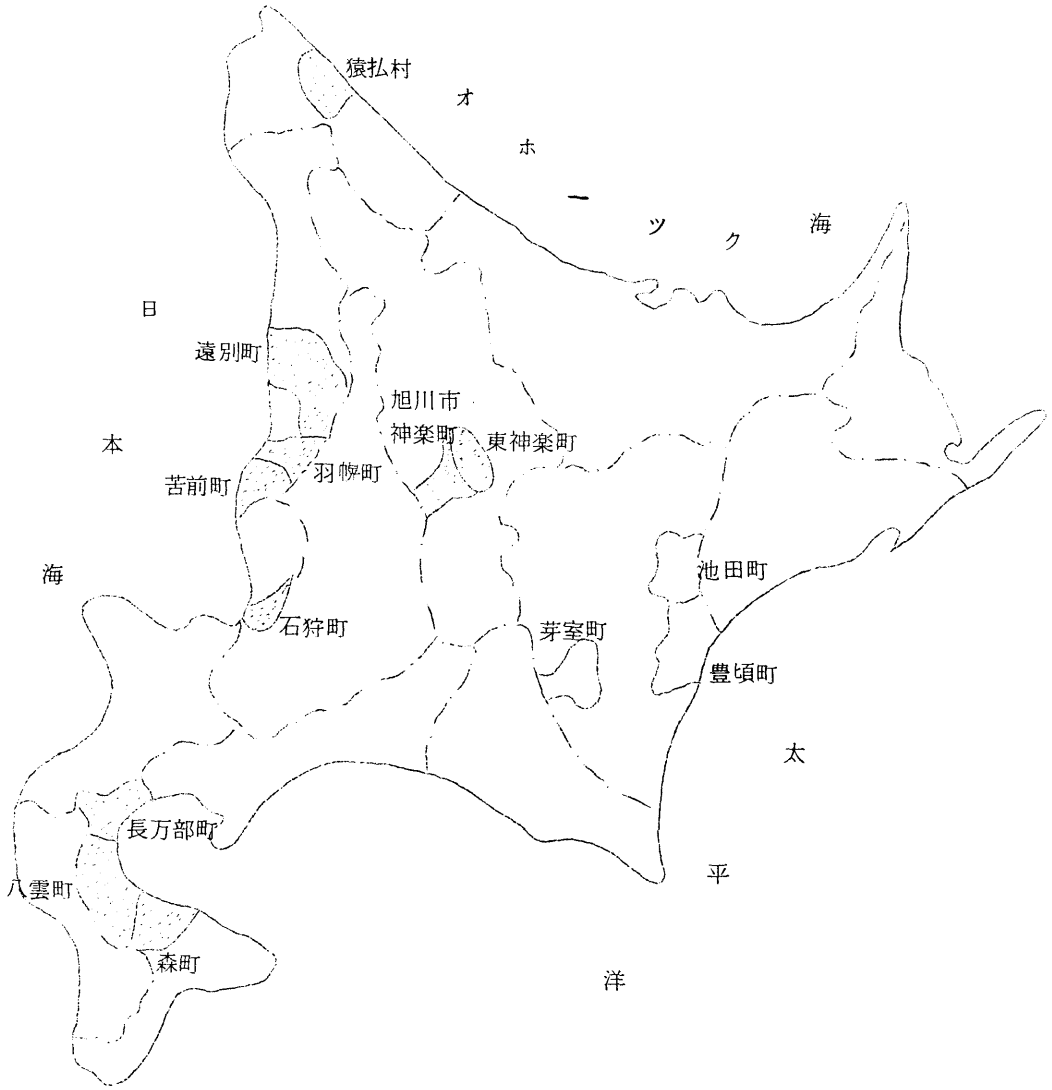
1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地方保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によった。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地方保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部第3課）による。
3. 土壌統および土壌区の設定に当っては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	森	哲郎
土壌改良科	科長	後藤	計二
	第1係長	小林	莊司
	研究職員	水元	秀彰
	“	伊東	輝行
	“	木村	清
	“	松原	一実
	第2係長	山口	正栄
	研究職員	小林	茂
	“	宮脇	忠
	“	山本	晴雄
	“	高橋	市十郎
	“	上坂	晶司
	十勝農試	菊地	晃二
	“	関谷	長昭
	“	横井	義雄
	北見農試	秋山	喜三郎
	上川農試	野崎	輝義
	“	土居	晃郎
	天北農試	奥村	純一

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既 調 査 面 積 (ha)		本 年 度 調 査 面 積 (ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
十 勝 東 部	豊 頃 町	351	8,290	0	0	351	8,290
	池 田 町	912	7,049	0	0	912	7,049
渡 島 噴 火 湾	八 雲 町	390	4,678	0	0	390	4,678
	長 万 部 町	211	1,607	0	0	211	1,607
駒 ヶ 岳 山 麓	森 町	251	2,154	0	0	251	2,154
十 勝 岳 西 山 麓	旭 川 市 神 楽 町	1,941	2,142	0	0	1,941	2,142
	東 神 楽 町	2,351	1,630	0	0	2,351	1,630
留 萌	苫 前 町	1,084	1,318	0	0	1,084	1,318
	羽 幌 町	1,300	1,229	0	0	1,300	1,229
天 塩	遠 別 町	937	1,804	0	0	937	1,804
石 狩 北 部 沿 海	石 狩 町	3,627	1,958	0	0	3,627	1,958
稚 内	猿 払 村	0	1,636	0	0	0	1,636
十 勝 中 部	芽 室 町	83	21,350	0	0	83	21,350

# 調査地区位置図



# 石 狩 北 部 沿 海 地 域

## ( 石 狩 町 )

### 1. 地域の概況

#### 1) 位置および調査面積

##### (1) 位置

北海道石狩郡石狩町

##### (2) 調査面積

郡市町村名	農 地 面 積 (ha)				調 査 対 象 面 積 (ha)			
	水 田	普通畑	樹園地	計	水 田	普通畑	樹園地	計
石狩郡石狩町	3,627	1,958	-	5,585	3,627	1,958	-	5,585

#### 2) 気 象

本町は日本海岸に位置し季節風が強い

項目		月別								備 考
		4	5	6	7	8	9	10		
気 温 (0.1℃)	平 均	61	115	158	206	224	177	116	年平均	80
	最高平均	109	167	207	252	268	225	166	"	126
	最低平均	12	63	109	159	179	129	66	"	34
降水量 (mm)	平 均	36	44	53	76	81	130	86	年間計	987

※石狩観測所

#### 3) 土地条件

##### (1) 地 形

石狩川の最下流に位置し、石狩川により発達した平坦な沖積地帯と日本海により発達したものとみられる砂土からなる沖積地帯、さらに下流域にみられる泥炭地帯が分布する。石狩川右岸には標高50m前後の洪積台地が存在する。

##### (2) 地 質

本地区の海岸沿には砂丘地帯が広く分布し、典型的な水田土壌型が見られる。また石狩川沿いには高位～低位泥炭土壌を中心にグライ土壌、灰褐色土壌等が広く発達している。表層には所により腐植層を持った火山灰とみられるものが存在する。

#### 4) 土地利用及営農状況

##### a) 経営面積(1戸平均ha)

市町村名	総面積	水田	普通畑	草地	その他
石狩町	4.91	3.86	0.61	0.34	-

b) 作付面積 (1戸平均ha)

市町村名	水稲	えん麦	小豆	たまねぎ	その他
石狩町	3.71	0.15	0.07	-	-

c) 家畜の種類及び頭数

項目	馬	乳牛	肉牛	豚	めん羊	鶏
石狩町 飼育頭数	2,111	869	9	351	25	15,458
飼育戸数	66	133	3	337	12	168
(1戸当平均) 飼育戸数	32.0	65	3.0	1.0	2.1	92.0

2. 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧

(水田)

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土性		
					表土	次層	性
花畔西	YR/YR	表層多腐植層	なし	あり	砂質		-
美登位	Y/YR	表層多腐植層	なし	あり	壤質	強粘質	
原野	Y/YR	全層多腐植層	なし	あり	粘質		-
美登江	GY/YR	全層多腐植層	なし	あり	強粘質		-
茨戸	Y/YR	表層腐植層なし	なし	あり	粘質	粘質	
生振中央	Y/Y	表層腐植層	なし	あり	砂質	砂質	
発寒	Y/Y	表層腐植層	なし	あり	強粘質	強粘質	
大曲	Y/Y	表層腐植層	なし	あり	粘質	砂質	
花畔	Y/Y	表層腐植層なし	なし	あり	壤質	砂質	
茨戸南	Y/Y	表層腐植層なし	なし	あり	強粘質	強粘質	
生振	Y/G	表層腐植層なし	なし	なし	強粘質	強粘質	

d) 農用機械所有数

市 町 村 名	区 別	10馬力未満		10馬力以上	
		個人有	共有	個人有	共有
石 狩 町	農 家 数	327	11	506	28
	台 数	345	6	512	15

e) 労働関係（町全体）

市 町 村 名	農業従事者（人）	常 雇	日 雇
石 狩 町	2,401	144	82,533

泥 炭	黒 泥	グライ	母 材	堆 積 様 式	施肥改善 土 壤 類 型
なし	あり	あり	ヨ シ	集 積	C・22
あり	なし	あり	非固結水成岩	水 積（河成）	B・12
あり	なし	あり	ヌマガヤ, ミズコケ	集 積	A・1
あり	なし	あり	ヨ シ	集 積	A・1
なし	なし	なし	非固結水成岩	水 積（河成）	G・61
なし	なし	あり	非固結水成岩	水 積（海成）	E・44
なし	なし	あり	非固結水成岩	水 積（河成）	E・41
なし	なし	なし	非固結水成岩	水 積（海成）	F・54
なし	なし	なし	非固結水成岩	水 積（海成）	G・64
なし	なし	なし	非固結水成岩	水 積（河成）	G・60
なし	なし	あり	非固結水成岩	水 積（河成）	D・30



(畑)

土壌統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層 礫を混在す る砂層	酸化 沈積物	土性		母材堆積 様式
					表土	次層	
春別	Y/YR	表層腐植層なし	なし	なし	強粘質	強粘質	洪積/ 非固結水成岩
高岡	YR/Y	表層腐植層	なし	あり	強粘質	強粘質	洪積/ 非固結水成岩
石狩	Y/YR	表層腐植層なし	なし	あり	砂質	砂質	水積(海成) 非固結水成岩

(2) 土壌区一覧

(水田)

土壌区名	簡略分級式	水田面積 (ha)
花畔西-花畔西	II ℓ n	347
美登位-美登位	II n	398
原野-原野	II t r	170
美登江-美登江	II p n	380
茨戸-茨戸	II p	160
生振中央-生振中央	II ℓ n	304
発寒-発寒	II p n	307
大曲-大曲	II ℓ	290
花畔-花畔	II ℓ n	880
茨戸南-茨戸南	III p	128
生振-生振	II p	263

(畑)

土壌区名	簡略分級式	畑面積 (ha)
春別-春別	III p II w f n	240
高岡-高岡	III p w II d n	630
石狩-石狩	III(w) II f n	1,088

3) 土壌統別説明

花 畔 西 統

(1) 土壌統の概況

A 土壌統の特徴

A-1. 断面の特徴

第1層の厚さ15cm前後、腐植含量2～8%、色は10YR～5Y、彩度1～2、明度2～3、土性はL～cLが主である。構造は粒質状で、可ぞ、粘着性は弱。不鮮明な糸根状斑鉄を含み、ち密度1.1～1.3。湿めりは湿である。下層への境界不明瞭。

第2層の厚さ10～15cm、腐植含量10%前後、色は10YR、彩度2、明度3前後。土性はL～SLである。構造は塊状～均質連結状で、凡そ、粘着性は弱。不鮮明な糸根状、膜状斑鉄を含む、湿めり湿。下層への境界明瞭である。

第3層は厚さ20～30cm、分解良好な泥炭又は黒泥である。

第4層は地表下40～50cm以下。色は5Y～2.5GY、彩度1、明度5前後である。土性はS～LS。湿めりは湿。鮮明な管状斑鉄を含む。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町生振 試坑No.26

第1層	0～14cm	腐植に富む灰褐(10YR3/2)のLS。粒質状構造でち密度1.3で中。可ぞ、粘着性は弱。不鮮明糸根状斑鉄含む。湿めり湿。下層への境界不鮮明。
第2層	14～22cm	腐植に頗る富む灰褐(10YR3/2)のSL。弱塊状構造、ち密度1.5で中。可ぞ、粘着性弱。不鮮明糸根、膜状斑鉄含む。湿めり湿。下層への境界明瞭。
第3層	22～45cm	分解良好な低位泥炭～黒泥。色は黒色(10YR2/2)。ち密度1.5で中、鮮明な糸根状斑鉄含む。湿めり湿、下層への境界不明瞭。
第4層	45～	腐植を欠く青灰(10YR5/1)のS。ち密度1.1で中。可ぞ、粘着性弱。湿めり湿。

代表的断の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~14	5.8	72.0	17.0	7.3	3.7	LS	4.89	0.32	15.3	8.4
2	14~22	2.4	61.0	20.6	7.2	12.2	SL	6.90	0.48	14.3	11.9
3	22~45	8.0	29.5	25.9	15.9	28.7	SC	25.62	1.20	21.4	44.4

層位	pH		置換 濃度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩基 飽和 度	磷酸 吸収 係数	有効態磷酸 BrayNo2法 mg/100g	30℃:NH <sub>4</sub> -N発生量 mg/100g		遊離酸 化 鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾 土	湿 土	
1	6.1	4.6	0.9	16.6	4.5	2.7	0.23	4.51	5.94	2.38	10.4	-	1.03
2	5.9	4.6	1.3	17.9	4.8	2.2	0.14	3.98	7.18	1.98	11.6	-	0.97
3	-	-	-	45.0	12.6	7.0	0.32	44.2	-	-	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として美登位統があるが、本統は下層が砂である事により区別される。

A-3 母 材 ヨ シ

A-4 堆積様式 集 積

B 地 形 平 坦

C 気 候 年平均気温 8.0℃ 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稻として利用されている。

E 農業上の留意事項

作土の土性が粗く、やや排水が良いため、塩基の補給、並びに粘土の客入が必要である。

F 分 布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水 元 秀 彰 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(4) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
花畔西統 - 花畔西区	⑨ ll ℓ n

② 土壤区別説明

花畔西統 - 花畔西区

示性分級式 (水田)

土	壤	表	有	表	耕	(	(	(	湛	(	(	酸	(	(	(	土	(	(	(	自	(	(	養	(	(	(	(	(	障	(	災	(							
生	効	土	土	土	土	表	表	表	作	作	易	遊	グ	透	保	湿	然	保	固	層	置	有	微	酸	有	物	增	地	冠	す	べ	り	の	危	険				
産	土	の	の	の	の	土	土	土	下	下	分	離	ラ	地	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	質	障	害	の	危	険				
力	の	層	の	の	の	乾	透	透	50	50	還	性	化	イ	の	水	水	沃	沃	状	豊	含	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量			
可	の	層	の	の	の	硬	性	性	の	の	元	有	機	物	含	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量			
能	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性			
性	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性			
等	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性			
級	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i		a																					
⑨ ll	I	I	I	I	1	1	(2)	ll	3	2	I	2	2	3	-	-	-	-	I	1	1	1	ll	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式	ll ℓ n																																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は花畔西統に属する。作土の厚さ10~15cm。作土の土性は粗く、約20~30cm以下に分解良降な泥炭又は黒泥層があり、約50cm以下からは砂層が出現する。

P 植生および利用状況

水田（一毛作田）として利用されている。

C 地力保全上の問題点

地下水位はやや高いが、透水性は極めて良く、漏水田となりやすい。このため粘土の客入等が必

要があり、さらに塩基、有機物の補給が必要である。

D 分 布

北海道石狩郡石狩町

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和47年3月31日

美 登 位 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の特徴

A-1. 断面の特徴

第1層の厚さ15cm内外。腐植含量2～5%。色は5Y、彩度1、明度4～5。土性はSL～L、構造は粒質～粒状で、可ぞ、粘着性は弱～中、不鮮明な糸根状斑鉄が有り、湿りは湿である。下層への境界明瞭～不明瞭。

第2層の厚さ10cm前後。腐植含量10%前後。火山灰層とみられるのが多い。色は7.5YR～10YR、彩度1、明度2～3。土性はL～CL。構造は均質連結状～塊状である。ち密度1.1～1.4で中。可ぞ、粘着性弱～中。不鮮明な糸根状斑鉄を含む。湿り湿。下層への境界明瞭。

第3層の厚さ15～25cm。分解良好な低位泥炭層又は黒泥である。ち密度1.0～1.5で中程度。湿り湿。

第4層は地表下40～50cm以下、土色は5Y、彩度1～2、明度5前後。土性はLiC～HC。ち密度1.1前後で中。可ぞ、粘着性強。やや鮮明な管状斑鉄を含む。湿り湿。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町美登位 試抗No.51

第1層	0～15cm	腐植を含む灰色(5Y4/1)のSL。粒状構造でち密度1.2で中、可ぞ、粘着性弱。不鮮明糸根状斑鉄あり。湿めり湿。下層への境界明瞭。
第2層	15～24cm	腐植に頗る富む黒色(7.5YR2/1)のCL。発達弱の塊状構造。ち密度1.4で中、可ぞ、粘着性弱。不鮮明糸根状斑鉄含む。湿めり湿。下層への境界明瞭。
第3層	24～36cm	灰褐(7.5YR3/2)の黒泥。ち密度1.5で中。不鮮明膜状斑鉄有り。湿めり湿。下層への境界漸変。
第4層	36～	腐植を欠く灰色(5Y5/2)のHC。発達弱の塊状構造、ち密度1.1で中。可ぞ、粘着性強。やや鮮明な管状斑鉄含む。湿めり湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~15	1.2	65.4	14.8	12.0	7.8	SL	1.41	0.11	12.6	2.4
2	15~24	4.9	16.4	31.3	30.2	22.1	CL	7.96	0.53	15.1	13.8
3	24~36	10.9	0.8	3.1	35.2	60.9	HC	24.21	1.89	13.4	41.9

層位	p H		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩基 飽和 度%	磷酸 吸収 係数	有効態磷酸 Bray No2法 mg/100g	30°C: NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100		遊離酸 化 鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
1	6.4	4.9	0.4	5.8	2.2		0.21	80.1	425	28	3.9	-	0.92
2	5.7	4.4	1.6	30.7	10.6	5.8	0.50	55.0	715	20.8	16.7	-	0.89
3	5.3	4.1	4.1	60.8	11.1	6.7	1.76	32.0		3.4	-	-	-

A-2 他の土壌との関係

本統と類似する統として花畔西統がある。本統は下層が粘質である事により区別される。

A-3 母 材 ヨ シ

A-4 堆積様式 集 積

B 地 形 平 坦

C 気 候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稲単作として利用

E 農業上の留意事項

排水が悪いため排水施設の完備が必要である。

F 分 布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水 元 秀 彰 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日





原 野 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm前後、腐植含量5~10%、土色は2.5Y~5Y、彩度1、明度4~5  
土性はL~CLである。粒質構造で、ち密度10以下で疎。可ぞ、粘着性は中程度。不鮮明な  
膜状、糸根状斑鉄あり。湿り湿。下層への境界明瞭。

第2層の厚さ20~30cm、土色2.5YR、彩度2、明度3前後。ミズゴケ、ヌマガヤ、を  
構成植物とする高位~中間泥炭である。分解は不良、湿り潤。下層への境界不明瞭~漸変。

第3層は地表下30~40cm以下。土色は7.5YR、彩度2~3、明度3~4である。ヌマ  
ガヤ、ミズゴケを主体とする中間泥炭である。分解は不良。湿り潤。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町美登位 試抗No.59

第1層	0~14cm	腐植に富む灰色(2.5Y5/1)のSCL。粒質状構造で、ち密度8で疎。可ぞ、粘着性中。不鮮明な膜状、雲状斑鉄有り、湿めり湿。下層への境界明瞭。
第2層	14~35	ミズゴケ、ヌマガヤ、ツルコケモモを構成植物とする分解不良な高位泥炭である。ち密度8で疎。湿めり潤。下層への境界不明瞭。
第3層	35~	ヌマガヤ、ミズゴケ、ヨシ、ツルコケモモを構成植物とする分解不良な中間泥炭である。ち密度8で疎。湿めり潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~14cm	3.4	29.8	34.9	19.8	15.5	SCL	5.02	0.29	14.0	14.9
2	14~35	11.1	-	-	-	-		50.06	1.23	17.4	89.9

層位	p H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 BrayNo2法 mg/100g	30°C:NH <sub>4</sub> -N発生量 mg/100g		遊離酸化鉄%
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
1	5.5	4.2	3.1	2.43	8.4	3.6	0.43	51.2	7.25	11.4	2.01	-	0.90
2	5.0	4.2	6.3	6.26	10.9	7.9	0.16	30.2		1.0	3.01	-	1.33

### A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として美登江統がある。本統は中間～高位泥炭である事により区別される。

A-3 母材 ミズゴケ、ヌマガヤ

A-4 堆積様式 集積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 8.0℃ 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稲単作として利用

E 農業上の留意事項

排水の完備、粘土の客入、塩基の補給が必要である。

F 分布

北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者

水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日

昭和47年3月31日

## (2) 土壌統の細分

### ① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
原野統-原野区	(稻) lltr

### (2) 土壌区別説明

原野統 - 原野区

示 性 分 級 式 (水 田)

土	壤	表	有	表	耕	(	(	(	湛	(	(	酸	(	(	(	(	自	(	(	(	養	(	(	(	(	(	障	(	(	(	(						
生	効	土	土	表	表	表	作	作	化	易	遊	グ	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	有	微	酸	有	物	災	(	(	(	(	(					
産	土	土	の	土	土	土	土	土	下	分	離	ラ	地	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	物	冠	(	(	(				
力	の	層	の	の	の	の	下	下	50	解	性	化	イ	の	水	水	沃	沃	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	物	冠	(	(	(	(	(		
可	の	層	の	の	の	の	下	下	50	性	化	イ	の	水	水	沃	沃	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	物	冠	(	(	(	(	(			
能	の	層	の	の	の	の	下	下	50	性	化	イ	の	水	水	沃	沃	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	物	冠	(	(	(	(	(			
厚	の	層	の	の	の	の	下	下	50	性	化	イ	の	水	水	沃	沃	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	物	冠	(	(	(	(	(			
性	深	性	難	性	性	性	硬	水	土	元	量	量	度	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否		
等	さ	さ	量	易	易	易	性	性	密	性	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否		
級	t	d	g	p					l			r																									
Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	
簡略分級式									ll	t	r																										

A 土壤区の特徴

この土壤区は原野統に属する。作土の厚さ10~15cm。以下分解不良な泥炭である。

B 植生および利用状況

水田(一毛作田)として利用されているが、まだ未墾地も存在する。

C 地力保全上の問題点

作土下泥炭層であるため、粘土の客入、排水施設の完備が必要である。さらに塩基の補給も望ましい。

D 分布

北海道石狩郡石狩町

記載責任者

水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

日付

昭和47年3月31日

# 美 登 江 統

## (1) 土壤統の概況

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15～18cm前後、腐植含量10%前後。土色は2.5GY、彩度1、明度3～4。土性はLiCである。粒質状構造で、ち密度10前後で疎。可ぞ、粘着性中程度。鮮明糸根状、膜状斑鉄を含む。湿り湿。

第2層の厚さ10～15cm、土色7.5YR、彩度1～2、明度2～3。分解良好な低位泥炭である。ち密度8前後で疎。湿り潤、下層への境界漸変。

第3層は地表下25～35cm以下。土色7.5YR、彩度2～3、明度3前後。分解不良なヨンを主体とする低位泥炭土である。

#### 代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町 試抗No64

第1層	0～18cm	腐植に頗る富む青灰(2.5GY4/1)のLiC。粒質状構造で、ち密度10で疎。可ぞ、粘着性中。鮮明糸根状、膜状斑鉄含む。湿めり湿。下層への境界明瞭。
第2層	18～27cm	ヨンを構成植物とする低位泥炭。分解は良好でち密度8の疎。湿めり潤。下層への境界不明瞭。
第3層	27～	ヨンを構成植物とする低位泥炭。分解は不良で、ち密度8の疎。湿めり潤。

#### 代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0～18	4.1	17.3	28.6	28.4	25.7	LiC	8.60	0.62
2	18～27	11.8	5.5	7.0	44.5	43.0	LiC	5.20	2.98

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 BrayNo2法 mg/100g	30°C: NH <sub>4</sub> -N発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
1	5.6	4.3	2.2	27.1	9.0	5.2	0.18	53.0	1.043	1.28	17.0	-	1.14
2	5.0	4.0	5.0	56.0	4.1	1.1	0.14	9.5		1.8	103.0	-	1.96

### A-2 他の土壌等との関係

本統と類似する統として原野統がある。本統はヨシを主体とする低位泥炭土壌である事により区別される。

A-3 母材 ヨシ

A-4 堆積様式 集積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稻単作として利用

E 農業上の留意事項

排水施設の完備、粘土の客入、塩基の補給が必要である。

F 分布

北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者

水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日

昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
美登江統-美登江区	Ⅱ p n

(2) 土壤区別説明

美登江統-美登江区
-----------

示性分級式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等	表 効 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 土 性 質	耕 土 の 粘 土 性 質	（ 表 土 の 風 乾 硬 さ	（ 表 土 の 透 水 性	（ 作 土 下 50 cm の 最 高 土 質 密 度	（ 易 分 解 性 有 機 物 含 量	（ 遊 離 酸 化 鉄 含 量	（ グ ラ ン 地 化 度	（ 透 水 性	（ 保 水 性	（ 自 然 潤 肥 力	（ 固 肥 定 量	（ 養 分 換 算 性	（ 置 換 の 性 質	（ 有 効 燐 素	（ 有 効 窒 素	（ 微 酸 性	（ 酸 性	障 害 の 有 無	（ 物 理 的 障 害	（ 災 害 の 有 無	（ 地 す べ り の 危 険 度													
級	t	d	g	p			l		r		w				f		n					i		a													
Ⅱ	I	I	I	Ⅱ	3	2	2	I	3	3	I	2	2	3	—	—	—	I	1	2	1	Ⅱ	1	1	2	2	2	2	2	1	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式	Ⅱ p n																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は美登江統に属する、作土の厚さ10~15cm。作土下ヨシを主体とする低位泥炭層である。泥炭層の上部は分解良好となっている。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）として利用されている。

C 地力保全上の問題点

作土の薄いところは粘土の客入が必要であり、さらに排水施設の完備、塩基の補給が望ましい。

D 分布

北海道石狩郡石狩町

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和47年3月31日

茨 戸 統

(1) 土壌統の概況

A 土壌統の概況

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm前後。腐植含量2～5%。土色は2.5Y、彩度1、明度4～5。土性はCLが主である。粒状構造で、ち密度1.5前後で中、可ぞ、粘着性中程度。鮮明糸根状、膜状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。

第2層の厚さ10cm前後。腐植含量2%以下。土色は2.5Y、彩度2、明度5前後。土性はCLが主である。発達弱度の塊状構造、ち密度1.5～1.7で中。可ぞ、粘着性中程度。不鮮明な糸根状斑鉄有り。湿り湿。下層への境界不明瞭。

第3層の厚さ30～40cm、土色は10YR、彩度2、明度4前後である。土性はCLが主であり、発達中程度の粒状、小塊状構造、ち密度1.9前後で中。可ぞ、粘着性中程度。不鮮明糸根状斑鉄有り。湿り湿。下層への境界漸変。

第4層は地表下50～60cm。土色は10YR、彩度2、明度6前後である。土性はCLが主である。発達強度の粒状、小塊状構造である。ち密度2.0前後で中、可ぞ、粘着性中程度。湿り湿。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町生振 試抗No.1

第1層	0～21cm	腐植を含む灰色(2.5Y5/2)のCL。粒状構造でち密度1.5で中。可ぞ、粘着性中。鮮明な糸根状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。
第2層	21～30cm	腐植を欠く灰色(2.5Y5/2)のCL。発達弱の塊状構造で、ち密度1.7の中。可ぞ、粘着性中。不鮮明糸根状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界不明瞭。
第3層	30～56cm	腐植を欠く灰褐(10YR5/2)のCL。発達中の粒状、小塊状構造。ち密度1.9の中。可ぞ、粘着性中、不鮮明糸根状斑鉄有り、湿り湿、下層への境界漸変。
第4層	56～	腐植を欠く灰褐(10YR6/2)のCL。発達強の粒状、小塊状構造。ち密度1.9で中、可ぞ、粘着性中。斑鉄なし。湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~21	2.3	3.1	54.3	23.3	19.3	CL	1.33	0.11	11.8	2.4
2	21~30	2.0	3.1	56.1	24.0	16.8	CL	1.11	0.08	13.6	1.9
3	30~56	2.3	1.1	45.5	32.5	20.9	CL	0.98	0.08	12.0	1.7

層位	p H		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和 度	磷酸 吸収 係数	有効態磷酸 BrayNo2法 mg/100g	30°C:NH <sub>4</sub> -N発生量 mg/100g		遊離酸 化 鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾 土	湿 土	
1	5.9	4.4	0.9	14.5	6.7	5.6	0.41	87.3	717	14.0	10.0	-	1.01
2	6.3	4.7	0.4	15.0	7.7	6.0	0.47	94.0	510	11.2	4.2	-	1.10
3	6.5	5.1	0.2	18.2	9.3	7.3	0.55	94.5	573	9.0	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として茨戸南統がある。本統は土性がやや粗い事により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水 積（河成）

B 地 形 平 坦

C 気 候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稲単作として利用されている。

E 農業上の留意事項

有機物の捕給、塩基の補給に心がける。

F 分 布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水 元 秀 彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和47年3月31日



(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
茨戸統-茨戸区	(稲) ll p

(2) 土壤区別説明

茨戸統-茨戸区
---------

示性分級式 (水田)

土	壤	表	有	表	耕	(	(	(	湛	(	(	酸	(	(	土	(	(	自	(	(	養	(	(	(	(	(	障	(	(	災	(					
生	効	土	土	土	土	表	表	表	作	作	易	遊	グ	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地								
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土						
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の						
可	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性							
能	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性						
等	級	t	d	g	p				l		r		w		f		n									i		a								
ll	I	I	I	ll	2	2	2	I	2	2	I	2	2	1	-	-	-	I	1	2	1	I	2	1	1	2	2	1	1	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式		ll p																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は茨戸統に属する。作土の厚さ15cm以上で厚く、土性もCLが主でやや粘質である。地下水位も低く、構造の発達も極めて良好なものが多い。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）として利用されている。

C 地力保全上の問題

この土壤区は土性がCLを主とし、さらに構造の発達も良いため水稲生育のための物理性も良好である。しかしN供給力がやや低いため水稲生育も秋落的傾向を示す土壤とみられる。このため有機物補給等によりNの供給能力を高め、さらに塩基の補給に心がける必要がある。

D 分布 北海道石狩郡石狩町

記載責任者  
日付

水元秀彰（北海道立中央農業試験場）  
昭和47年3月31日

## 生 振 中 央 統

### (1) 土壤統の概況

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層の厚さ10～15cm。腐植含量5～10%。土色は2.5Y、彩度1、明度4前後。土性はSLが主である。構造は粒質状、ち密度2.0前後で中、可ぞ、粘着性は弱。不鮮明糸根状斑鉄含む、湿り湿。下層への境界不明瞭。

第2層の厚さ10～15cm、腐植含量5～10%。土色は2.5Y、彩度1、明度4～5。土性はSL～LSである。構造は均質連結状で、ち密度1.5前後で中、可ぞ、粘着性弱。不鮮明な糸根状、雲状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。

第3層の厚さ15～20cm。腐植なく、土色は2.5Y、彩度1、明度4～5。土性はS～LSである。構造は発達弱の塊状である。ち密度1.7前後で中。可ぞ、粘着性弱。鮮明な管状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。

第4層の厚さ15～20cm、土色は10YR、彩度3、明度5、土性はS。ち密度1.1で中。鮮明雲状斑鉄に頗る富む。湿り湿。下層への境界漸変。

第5層は地表下約50cm以下。土色は10Y、彩度1、明度4。土性はS。ち密度8で疎。湿り湿。

#### 代 表 的 断 面 形 態

(石狩郡石狩町生振 試抗No.7)

第1層	0～10cm	腐植に富む灰色(2.5Y4/1)のSL。粒質状構造。ち密度1.9で中。可ぞ、粘着性弱。不鮮明糸根状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。
第2層	10～17cm	腐植に富む灰色(2.5Y4/1)のLS。ち密度1.6で中。可ぞ、粘着性弱。不鮮明糸根状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。
第3層	17～30cm	腐植を欠く灰色(5Y5/1)のLS。発達弱の塊状構造。ち密度1.7で中。可ぞ、粘着性弱。鮮明管状斑鉄含む。湿り湿。
第4層	30～46cm	土色黄褐(10YR5/3)のS、ち密度1.1で中。可ぞ、粘着性弱。鮮明雲状斑鉄に富む。湿り湿。下層への境界漸変。
第5層	46～	土色青灰(10Y4/1)のS。ち密度8で疎。可ぞ、粘着性弱。湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~10	1.0	62.4	19.7	10.3	7.6	SL	3.31	0.17	19.3	5.8
2	10~17	10.9	67.2	18.0	9.9	4.9	LS	3.06	0.17	18.2	5.3
3	17~30	1.2	72.0	18.0	7.0	3.0	LS	1.17	0.07	16.6	2.0

層位	p H		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩基 飽和 度	磷酸 吸収 係数	有効態磷酸 BrayNo2法 mg/100g	30°C : NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g		遊離酸 化 鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
1	6.2	4.8	0.4	10.8	3.7	1.4	0.23	4.98	5.45	1.32	4.5	-	0.80
2	6.5	4.9	0.3	16.5	4.0	1.3	1.12	3.37	5.61	1.26	7.2	-	0.89
3	6.8	5.1	0.2	8.7	4.4	1.2	0.35	6.88	4.66	6.0	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として大曲統、花畔統があるが本統は他の統に比べ湿性である事により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(海成)

B 地 形 平 坦

C 気 候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稻単作として利用

E 農業上の留意事項

粘土の客入、明渠排水の完備、塩基の補給

F 分 布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水 元 秀 彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日



発 寒 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の概況

A-1. 断面の特徴

第1層の厚さ15cm前後。腐植含量5%前後。土色2.5Y、彩度1~2、明度4前後。土性はLiCである。粒質状構造。ち密度20前後で中。可ぞ、粘着性強。鮮明糸根状、膜状斑鉄含む。湿り湿。下層の境界明瞭。

第2層の厚さ15~20cm。腐植含量5%以下、土色2.5Y、彩度1、明度5前後。土性はLiCである。構造は発達弱度の塊状。ち密度20前後。可ぞ、粘着性強、鮮明な糸根状、膜状斑鉄含む~富む。湿り湿。下層の境界不明瞭。

第3層の25~30cm。土色5Y、彩度1、明度6、土性はLiCである。発達弱度の塊状構造。ち密度15前後で中。可ぞ、粘着性強。鮮明雲状斑鉄を含む。湿り湿。下層への境界漸変。

第4層は地表下50~60cm以下。土色は10GY、彩度1、明度6前後。土性はHC。可ぞ、粘着性強。鮮明管状斑鉄含む。湿り湿。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町 試抗Na38

第1層	0~14cm	腐植に富む灰色(2.5Y4/2)のLiC。粒質状構造。ち密度22で中。可ぞ、粘着性強。鮮明糸根、膜状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭
第2層	14~30cm	腐植に富む灰色(5Y5/1)のLiC。発達弱の塊状構造。ち密度22で中。可ぞ、粘着性強。Mnに富む。湿り湿。下層への境界不明瞭。
第3層	50~53cm	腐植を欠く灰色(5Y6/1)のLiC。発達弱の塊状構造。ち密度16で中、可ぞ、粘着性強、鮮明な雲状斑鉄、Mnに富む、湿り湿。下層への境界漸変。
第4層	53	土色青灰(10GY6/1)のHC。均質連結状構造で、可ぞ性、粘着性強。鮮明管状斑鉄含む。湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~14	4.6	11.5	18.2	32.9	37.4	LiC	3.44	0.32	10.6	6.0
2	14~30	6.1	17.6	22.7	31.9	27.8	LiC	1.84	0.18	20.2	6.1
3	30~53	5.7	2.5	33.1	31.7	32.7	LiC	1.27	0.11	12.0	2.2

層位	p H		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩基 飽和 度	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 酸 BrayNo2法 me/100g	30°C: NH <sub>4</sub> - N 発 生 量 mg/100g		遊離酸 化 鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
1	5.4	4.2	2.8	25.5	10.1	4.5	0.15	57.6	10.48	4.2	23.5	-	2.39
2	6.0	4.4	0.8	26.8	13.1	6.6	0.13	73.8	10.65	1.0	7.0	-	2.44
3	5.8	4.3	1.0	26.4	12.9	7.8	0.20	79.3	9.54	1.8	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として生振統がある。本統はやや地下水位が低い事により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地 形 平 坦

C 気 候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稲単作として利用

E 農業上の留意事項

排水施設の完備 塩基の補給

F 分 布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水 元 秀 彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

(1) 土壤区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
発 寒 統 - 発 寒 区	(稻) llpn

(2) 土壤区別説明

発 寒 統 - 発 寒 区
---------------

示 性 分 級 式 (水 田)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	表 土 転 換 層 の 深 さ	表 土 粘 着 性	表 土 乾 硬 さ	灌 漑 水 透 水 性	作 土 下 50 cm の 最 高 ち 密 度	酸 化 還 元 性	易 分 解 性	遊 離 酸 化 鉄 含 量	グ ラ イ 層 の 厚 さ	地 水 乾 湿 性	透 水 性	保 湿 性	自 然 沃 潤 力	保 固 力	肥 定 力	養 分 換 取 率	置 換 性	有 効 態 量	微 酸 性	酸 度	障 害 物 質 の 有 無	災 害 物 質 の 有 無	地 冠 水 べ り の 危 険 度												
	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i		a																		
II	I	I	I	II	3	2	2	I	1	2	I	3	1	2	-	-	-	I	1	2	2	II	1	1	3	3	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式	llpn																																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は発寒統に属する。作土の厚さ15cm前後、作土の土性は強粘質である。約50cm以下にグライ層がありやや湿性の土壤である。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）として利用されている。部分的に畑作として利用されているところもある。

C 地力保全上の問題点

地下水位がやや高い事、さらに全層強粘質なため透水が悪いので排水施設の完備、パンプレーカー利用による表面排水等が必要である。

D 分 布

北海道石狩郡石狩町

記載責任者

水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

日 付

昭和47年3月31日

# 大 曲 統

## (1) 土壤統の概況

### A 土壤統の概況

#### A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm前後。腐植含量5～10%。土色5Y、彩度1、明度4～5。土性はL～CL。粒状構造で、ち密度1.2前後で中。可ぞ、粘着性弱～中、不鮮明糸根状、膜状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。

第2層の厚さ15～20cm。色は7.5YR、彩度2、明度2～3。土性はS。ち密度1.8で中。斑鉄の集積層である。湿り湿。下層への境界漸変。

第3層の厚さ20～30cm。色は5Y、彩度1、明度5。土性はS。ち密度1.5～1.8で中。不鮮明雲状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界漸変。

第4層は地表下50～60cm以下。色は5Y、彩度1、明度5。土性はS、ち密度1.5前後で中。湿り湿。

#### 代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町 試抗No.77

第1層	0～15cm	腐植に富む灰色(5Y4/1)のCL。粒状構造でち密度1.2で中可ぞ、粘着性中。不鮮明糸根、膜状、雲状斑鉄含む。湿めり湿。下層への境界明瞭。
第2層	15～32cm	腐植を含む灰褐(7.5YR3/2)のS。単粒状構造で、ち密度1.8で中。可ぞ、粘着性弱。Feの集積層となっている。湿めり湿、下層への境界漸変。
第3層	32～52cm	腐植を欠く灰色(5Y4/1)のS。単粒状構造でち密度1.8で中。可ぞ、粘着性弱。不鮮明雲状斑鉄含む。湿めり湿。下層への境界漸変。
第4層	52～	土色灰色(5Y5/1)のS。単粒状構造で、可ぞ、粘着性弱。湿めり湿。



代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~15	3.8	31.3	24.1	22.4	22.2	CL	5.02	0.28	17.9	8.7
2	15~32	2.5	82.1	12.7	2.8	2.4	S	1.66	0.09	18.0	2.9

層位	p H		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩基 飽和 度	磷 酸 吸 收 係 数	有効態磷 Bray No2法 mg/100g	30°C: NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g		遊離酸 化 鉄
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
層	6.2	4.6	0.9	23.3	8.6	6.2	0.30	64.8	64.5	10.0	10.4	-	0.64
位	6.3	4.5	2.2	10.0	1.7	1.0	0.10	28.8	100.5	8.4	1.9	-	0.23

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として花畔統がある。本統はやや湿性であり酸化沈積物による盤層が存在する事により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(海成)

B 地 形 平 坦

C 気 候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稻単作として利用

E 農業上の留意事項

粘土の客入、塩基の補給

F 分 布

北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水 元 秀 彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日



花 畔 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の概況

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ11～15cm。腐植含量5%以下。土色は2.5 Y、彩度1、明度4。土性はSLが主である。粒状構造で、ち密度1.9で中。可ぞ、粘着性弱～中。不鮮明糸根状、膜状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界不明瞭。

第2層の厚さ5～10cm。腐植含量5%以下。土色は2.5 Y、彩度1、明度4。土性はSLが主である。発達弱度の塊状構造。ち密度2.0前後で中。可ぞ、粘着性中程度。鮮明膜状、糸根状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。

第3層の厚さ15～20cm。土色2.5 Y、彩度2、明度5。土性はSL。発達弱度の塊状構造。ち密度2.2前後で中。可ぞ、粘着性弱。鮮明糸根状、膜状斑鉄に富み、Mn斑有り。湿めり湿。下層への境界不明瞭。

第4層の厚さ20～30cm。土色2.5 Y、彩度1、明度5。土性はS。ち密度1.9で中。Mn結核含む。湿り湿。下層への境界漸変。

第5層は地表下50～70cm以下。土色は彩度1、明度5、土性はS。ち密度1.7で中、不鮮明雲状斑鉄有り。湿り湿。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町試抗No.6

第1層	0～11cm	腐植を含む灰色(2.5 Y 4 / 1)のSL。粒状構造でち密度1.9で中。可ぞ、粘着性中。不鮮明糸根状、雲状斑鉄含む。湿めり湿。下層への境界不明瞭。
第2層	11～16cm	腐植を含む灰色(2.5 Y 4 / 1)のSL。発達弱の塊状構造。ち密度2.2で中。可ぞ、粘着性。鮮明膜状、糸根状斑鉄含む。湿めり湿。下層への境界明瞭。
第3層	16～29cm	腐植を含む灰色(2.5 Y 5 / 2)のSL。発達弱の塊状構造。ち密度2.2で中。可ぞ、粘着性弱、鮮明膜状斑鉄富み、Mn含む。湿めり湿。境界不明瞭。
第4層	29～52cm	腐植を欠く灰色(2.5 Y 5 / 1)のS、ち密度1.9で中。Mn結核含む。湿めり湿。境界漸変。

第 5 層	5 2	土色は灰色 ( 2.5 Y 5 / 1 ) の S。ち密度 17 で中。不鮮明雲状斑鉄あり。湿めり湿。
-------	-----	-----------------------------------------------------

代表断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルク	粘 土					
1	0~11	1.7	55.7	19.1	13.9	11.3	SL	2.46	0.19	12.7	4.3
2	11~16	1.5	50.6	19.2	15.5	14.7	SL	2.46	0.18	13.4	4.3
3	16~29	0.8	53.2	19.4	14.6	12.8	SL	1.82	0.13	13.9	3.1

層位	p H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度	磷酸吸収係数	有効態磷酸 BrayNo2法 mg/100g	30°C : NH <sub>4</sub> -N 発生量 me/100g		遊離酸 化 鉄
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾 土	湿 土	
1	6.3	4.6	0.9	12.9	3.9	2.4	0.37	5.12	671	46.2	9.2	-	0.78
2	6.4	4.6	0.9	14.9	3.1	1.8	0.23	3.49	429	32.3	5.4	-	0.88
3	6.6	4.9	0.3	7.0	2.5	1.5	0.25	6.12	262	3.6	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として大曲統がある。本統は地下水位低く、透水性が極めて良好である事により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積(海成)

B 地 形 平坦

C 気 候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稻単作として利用

E 農業上の留意事項

粘土の客入、塩基の補給、有機物の補給

F 分布

北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者

水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日

昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
花 畔 統 - 花 畔 区	(稻) ll n

② 土壌区別説明

花 畔 統 - 花 畔 区
---------------

示 性 分 級 式 (水 田)

土	壤	表	有	表	耕	(	(	(	湛	(	(	酸	(	(	土	(	(	自	(	(	養	(	(	(	(	(	障	(	災	(								
生	効	土	表	表	土	土	土	土	作	作	易	遊	グ	透	保	濕	保	然	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	(									
産	土	の	の	の	の	の	の	の	土	土	化	離	ラ	地							の	性	態	量	害	理	冠	す	(									
力	の	の	の	の	の	の	の	の	50	50	還	有	イ	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	の								
可	の	の	の	の	の	の	の	の	cm	cm	物	鐵	化	乾							基	灰	土	里	酸	素	酸	要	害	障	危							
能	厚	深	性	性	性	性	性	性	土	土	元	含	含	性	性	性	度	沃	力	力	状	豐	含					有	害	險	險							
性	等	さ	さ	量	易	性	性	性	密	度	量	量	度	濕	度	度	力	力	態	否	否	否	否	否	否	否	性	性	性	性	度							
級	t	d	g	p		l					r			w			f			n						i		a										
II	I	I	I	I	1	1	1	1	II	3	2	I	1	3	1	-	-	-	-	I	2	1	1	II	2	1	1	2	3	2	1	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式	ll n																																					

A 土壌区の特徴

この土壌区は花畔統に属する。作土の厚さ15cm前後。作土の土性はSLが主である。下層はSが主であり透水性も良好である。また特にこの土壌は表面水型の水田土壌断面形態を示す典型的なものである。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）として利用されている。

C 地力保全上の問題点

極めて透水性が良いため部分的には粘土の客入が必要であり、さらに塩基の補給、有機物の補給が望ましい。

D 分布

北海道石狩郡石狩町

記載責任者

水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

日付

昭和47年3月31日

茨 戸 南 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の概況

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15 cm前後。腐植含量5%以下。土色は2.5 Y、彩度1~2、明度5。土性はLiCが主である。粒状構造で、ち密度1.5前後。可ぞ、粘着性強。不鮮明糸根状、膜状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界明瞭。

第2層の厚さ10~15 cm。腐植含量5%以下。土色は2.5 Y、彩度2、明度5、土性はLiC。発達弱度の塊状構造。ち密度2.3で中、可ぞ、粘着性強。鮮明糸根状斑鉄有り。湿り湿、下層への境界不明瞭。

第3層は地表下20~30 cm以下。土色は2.5 Y、彩度1、明度5前後。土性はHCである。発達中度の小塊状構造。ち密度2.0前後、可ぞ、粘着性強。Mn有り。湿り湿。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町生振 試抗No 9

第1層	0~13 cm	腐植を含む灰色(2.5 Y 5/2)のLiC。粒状構造で、ち密度1.4で中。可ぞ、粘着性強。不鮮明な糸根状、膜状斑鉄含む。湿り湿。境界明瞭。
第2層	13~21 cm	腐植を含む灰色(2.5 Y 5/2)のLiC。発達弱の塊状構造、ち密度1.4で中。可ぞ、粘着性強。鮮明雲状、糸根状斑鉄有り、湿り湿。境界不明瞭。
第3層	21~	腐植無の灰色(2.5 Y 5/1)のHC。発達中度の小塊状構造。ち密度2.1で中。可ぞ、粘着性強。Mn斑有り。湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	腐 植 %	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~13	3.1	5.9	16.4	37.5	40.2	LiC	2.21	0.21	10.7	3.8
2	13~21	3.0	7.5	15.5	38.2	38.8	LiC	2.00	0.20	10.2	3.5
3	21~	3.7	0.5	7.5	45.5	46.5	LiC	1.46	0.16	9.4	2.5

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 BrayNo2法 mg/100g	30°C:NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
1	6.4	4.8	0.9	22.1	11.9	6.5	0.47	85.1	557	12.0	8.0	-	1.48
2	6.6	5.2	0.2	22.1	13.4	7.8	0.47	98.1	825	11.0	6.8	-	1.66
3	6.9	5.0	0.2	24.1	13.2	12.6	0.59	109.4	685	3.8	-	-	-

#### A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として茨戸統がある。本統は極めて粘土含量が高い事により区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成）

B 地形 平担

C 気候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稲単作として利用

E 農業上の留意事項

塩基の補給、有機物の補給

F 分布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和47年3月31日

## (2) 土壌等の細分

### (1) 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
茨戸南統 - 茨戸南区	(稻) III p

### (2) 土壌区別説明

茨戸南統 - 茨戸南区





生 振 統

(1) 土壤等の概況

A 土壤統の概況

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm前後。腐植含量5%以下。土色は2.5Y、彩度1~2、明度5、土性はLiC。粒質状構造。ち密度15で中。可ぞ、粘着性強。鮮明膜状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界不明瞭。

第2層の厚さ15~20cm。腐植含量5%以下。土色5G、彩度1、明度4。土性はLiCである。構造は均質連結状、ち密度20前後。可ぞ、粘着性強。鮮明な糸根状斑鉄を含む。湿り湿。下層への境界不明瞭。

第3層は表面下30~35cm、土色は10GY、彩度1、明度4~5である。土性はLiCが主である。構造は発達弱度の塊状~均質連結状であり、ち密度11~15である。可ぞ、粘着性強、湿り湿。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町生振 試抗No4

第1層	0~13cm	腐植を含む灰色(2.5Y5/2)のLiC。粒質状構造。ち密度15で中。可ぞ、粘着性強。鮮明膜状斑鉄含む。湿り湿。境界不明瞭。
第2層	13~28cm	腐植を含む青灰(5G4/1)のSiC。均質連結状構造。ち密度21で中。可ぞ、粘着性強。鮮明糸根状斑鉄有り、湿り湿。境界不明瞭。
第3層	28~	腐植を欠く青灰(10GY4/1)のLiC。発達弱度の塊状構造。ち密度15で中。可ぞ、粘着性強。湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 %	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~13	3.2	1.0	21.6	42.5	34.9	LiC	2.40	0.22
2	13~28	2.4	0.4	21.6	45.6	32.4	SiC	1.78	0.16
3	28~	2.8	1.3	11.9	43.4	43.4	LiC	2.25	0.21

層位	p H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 BrayNo2法 mg/100g	30℃:NH <sub>4</sub> -N発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
1	5.8	4.2	2.8	21.1	9.1	6.9	0.48	78.0	8.68	1.68	12.4	-	1.37
2	5.4	4.2	2.5	22.0	9.4	7.6	0.39	79.2	8.61	14.0	8.8	-	1.16
3	5.5	4.2	3.4	22.8	9.4	7.2	0.37	70.1	8.23	13.2	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として発寒統がある。本統は地下水位が極めて高い事により区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 8.0℃ 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 水稲単作として利用

E 農業上の留意事項

排水施設の完備

F 分布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
生振統-生振区	(稻) flp

② 土壌区別説明

生振統 - 生振区
-----------



春 別 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の概況

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量4～6%、土性はL i Cが主である。色は10YRで彩度2、明度4。粒状構造で発達程度は中である。ち密度は1.8～2.0で中である。PH (H<sub>2</sub>O) 4.9前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ18～25cmで腐植含量2～3%、土性はL i Cが主である。色は7.5YRで彩度2、明度4～5。塊状構造で発達程度は良好である。ち密度は2.0～2.3である。PH(H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ25～30cmで腐植含量2%以下、土性はS i Cが主である。色は10YRで彩度3～4、明度5～6。塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度は2.2～2.4で中である。下層との境界は平坦漸変する。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)

試抗%T 276

第1層	0～25cm	腐植を含む灰褐(10YR 4/2)のL i C、発達良好の粒状構造で細孔に富む、ち密度は2.0で中、PH (H <sub>2</sub> O) 4.9、調査時の湿りは半乾、境界平坦明瞭。
第2層	25～44cm	腐植を含む灰褐(7.5YR 4/2)のL i C、発達良好の塊状構造で細孔を含む、ち密度は2.2で中、PH (H <sub>2</sub> O) 5.1、調査時の湿りは湿、境界波状明瞭。
第3層	44～72cm	腐植を欠く黄褐(10YR 5/4)のS i C、発達弱度の塊状構造で細孔を含む、ち密度は2.1で中、雲状斑鉄を含む、調査時の湿りは湿、境界平坦漸変。
第4層	72cm以下	腐植を欠く黄褐(7.5YR 4/3)のC L、発達弱度の角柱状構造で細孔を含む、ち密度は2.3で中、不鮮明な雲状斑鉄あり、調査時の湿りは湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性 LiC	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~25	2.0	61	25.2	3.55	3.32	LiC	2.50	0.21	11.9	4.3
2	25~44	6.0	2.0	28.5	3.49	3.48	LiC	1.22	0.09	13.7	2.1

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	燐液吸収係数	有効態燐酸 B ray N o2法 me/100g	30°C: NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	
1	4.9	3.5	1.05	1.63	3.5	1.5	0.6	3.42	780	--	-	-	-
2	5.1	3.8	8.9	1.45	4.1	2.3	0.3	4.62	980	-	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として高岡統が存在する。本統は地下水位が低く、透水性もやや良好である事により区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 平坦~3°以内の緩傾斜

C 気候 年平均気温 8.0°C 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 草地として利用

E 農業上の留意事項

有機物ならびに塩基の補給と同時に心土破碎を行なって根圏域の拡大をはかることが大切である。

F 分布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水元 秀 彰 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

① 土壤区の一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
習 別 - 春 別	Ⅲ p l l w f n

② 土壤区別説明

春 別 統 - 春 別 区
---------------

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 作 の 難 易	(土 の 乾 燥 性 )	(透 水 性 )	(保 水 性 )	(自 然 潤 湿 度 )	(養 分 定 着 力 )	(置 換 性 )	(有 機 質 含 量 )	(微 酸 性 )	(酸 性 燐 素 )	(障 害 物 質 )	(災 害 危 險 性 )	(増 冠 水 害 危 険 度 )	(地 す べ り 危 険 度 )	(傾 斜 危 険 度 )	(傾 斜 危 険 度 )	(侵 蝕 危 険 度 )	(耐 風 耐 蝕 性 )															
	t	d	g	p		w		f		n				i		a		s		e																
Ⅲ	I	I	I	Ⅲ	3	3	2	Ⅱ	3	1	1	Ⅱ	2	2	3	Ⅱ	3	1	1	2	2	3	I	1	1	I	1	1	I	1	NS	1	Ⅱ	1	1	1
簡略分級式 Ⅲ p l l w f n																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は春別統に属する。礫も含まないので根圏域はやや厚い。表土の土性微粒質で透水性小さく、保水性大きいため過湿のおそれがある。

B 植生および利用状況

主として採草地、放牧地として利用されている。

C 地力保全上の問題点

腐植含量ならびに石灰含量が少ないので有機物を施用し、併せて塩基の補給を行なうことが大切である。

D 分布 北海道石狩郡石狩町

記載責任者 水 元 秀 彰 (北海道立中央農業試験)

日 付 昭和47年3月31日

高 岡 統

(1) 土壌統の概況

A 土壌統の概況

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ20～25cm、腐植含量10%以下。土色は10YR、彩度1、明度4前後。土性はLiCが主である。発達強度の粒状、細粒状構造である。ち密度10前後。可そ、粘着性中～強。湿り湿。下層への境界明瞭。

第2層の厚さ10～15cm。腐植含量5%以下。土色は2.5Y、彩度1、明度5前後。土性はLiCが主である。発達弱度の塊状構造。ち密度20～25。可そ、粘着性强。不鮮明雲状斑鉄含む、湿り湿。下層への境界漸変。

第3層の厚さ20～25cm。土色は5Y、彩度1、明度6。土性はLiCである。発達弱度の柱状、塊状構造である。ち密度21～25。可そ、粘着性强。鮮明な雲状斑鉄含む。湿り湿。下層への境界漸変。

第4層は地表下50～60cm以下。土色は2.5GY、彩度1、明度7前後。土性はLiCである。構造は柱状構造。ち密度22～26。可そ、粘着性强。鮮明雲状斑鉄含む。湿り湿。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町高岡 試抗No6

第1層	0～23cm	腐植に富む灰褐(10YR4/1)のLiC。粒状、細粒状構造。ち密度10で疎。可そ、粘着性中。湿めり湿。境界明瞭。
第2層	23～33cm	腐植を含む灰色(2.5Y5/1)のLiC。発達弱の塊状構造。ち密度20で中、可そ、粘着性强、不鮮明雲状斑鉄含む。湿めり湿。境界漸変。
第3層	33～50cm	腐植無の灰色(5Y6/1)のLiC。発達弱度の柱状、塊状構造。ち密度21で中、可そ、粘着性强。鮮明雲状斑鉄に含む。湿り湿。境界漸変。
第4層	50～	腐植無の青灰(2.5GY7/1)のLiC。発達弱度の柱状構造。ち密度22で中、可そ、粘着性强。鮮明雲状斑鉄含む。湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~23	3.1	8.9	17.7	34.5	38.9	LiC	4.80	0.39	12.2	83
2	23~33	3.2	1.6	17.4	41.7	39.3	LiC	1.71	0.41	11.9	3.0
3	33~50	2.9	1.1	16.6	43.1	39.2	LiC	0.75	0.08	9.1	1.3

層位	p H		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度	燐 酸 吸 収 係 数	有効態 燐 酸 Trauy2法 mg/100g	乾 土
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.8	4.6	0.8	23.7	13.5	2.4	0.39	68.7	660	360	12.2
2	5.5	3.8	9.7	17.6	6.7	1.5	0.18	47.5	517	6.0	3.4
3	5.5	3.8	10.0	13.6	6.0	2.9	0.41	66.2	227	3.0	-

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として春別統がある。本統は下層が極めて湿性である事により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪 積

B 地 形 平 坦

C 気 候 年平均気温 8.0cm 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況 畑作として利用

E 農業上の留意事項

排水施設の完備、塩基、有機物の補給

F 分 布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水 元 秀 彰 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日



(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
高岡-高岡	Ⅲ p w l d n

② 土壤区別説明

高岡統 - 高岡区
-----------

示性分級式 (畑)

土	(耕)	(表)	(表)	(表)	(土)	(自)	(養)	(障)	(災)	(傾)	(侵)	(耐)																					
壤	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐											
生	効	土	耘	土	土	地	然	屑	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	然	斜	為	水	風											
産	土	の	の	の	風	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	的	害										
力	の	層	礫	の	粘	土	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	素	度	無	性	度	度	度										
可	の	厚	含	難	性	性	さ	性	性	度	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度	度										
能	深	性	易	性	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度	度										
性	等	さ	量	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度	度										
等	級	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																					
Ⅲ	I	Ⅱ	I	Ⅲ	3	3	2	Ⅲ	3	1	2	I	1	1	1	Ⅱ	1	1	1	2	2	1	I	1	1	I	1	1	1	I	1	1	1
簡易分級式		Ⅲ p w l d n																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は高岡統に属する。作土の厚さる20cm内外で深いが、ところにより有効土層が70cm内外とやや制限されるところがみられる。全層強粘質からなり保水性が大きいため一時的に過湿のおそれ大きい。

B 植生および利用状況

畑と水田が点在するが大部分畑地となっており、主に馬鈴しよ、豆類、牧草地として利用されている。

C 地力保全上の問題点

有効土層も粘質堅密なため制限されて、透水性小、保水性大のため一時的に表面湛水があり、過湿のおそれ大きいため暗渠排水ならびに明渠を完備することが必要である。さらに塩基、有機物の補給も必要である。

D 分布 北海道石狩郡石狩町

記載責任者  
日付

水元秀彰(北海道立中央農業試験場)  
昭和47年3月31日

石 狩 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の概況

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ20～25cm。腐植含量5%以下。土色は2.5Y、採度1、明度4。土性はLS。単粒状構造で、ち密度7で疎。湿り半乾。下層への境界不明瞭。

第2層の厚さ18～20cm。土色は10YR、彩度2、明度4前後。土性はS。ち密度10前後。湿り半乾。下層への境界漸変。

第3層は地表下40～50cm以下。土色は5Y、彩度1、明度4、土性はS。湿り半乾。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 石狩郡石狩町 試抗No 83

第1層	0～22cm	腐植を含む灰色(2.5Y4/1)のLS。単粒状構造。ち密度7で疎。湿り半乾、境界不明瞭。
第2層	22～40cm	腐植を欠く灰褐(10YR4/2)のS。単粒状構造。ち密度9で疎。湿り半乾。
第3層	40～	土色は灰色(5Y4/1)のS。単粒状構造。ち密度疎。湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0～22	5.8	76.3	12.8	6.7	4.2	LS	1.87	0.15

層位	炭素率	腐 植 %	p H		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100		
			H <sub>2</sub> O	KCL			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O
	12.6	3.2	6.6	4.9	0.2	8.4	1.8	0.8	0.49

層位	塩 基 飽和度 %	燐 酸 吸 収係数	有効態燐酸 Tro法 mg/100g	乾 土
1	37.2	510	14.8	11.7

A-2 他の土壌統との関係

本統は地下水位の低い水積（海成）である事により他の統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（海成）

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 8.0℃ 年降水量 987mm

D 植生及び利用状況

部分的に耕地として利用され、畑（豆類、そさい、牧草）と水田になっている。

E 農業上の留意事項

有機物、粘土、塩基の補給による総合的地力培養が必要である。

F 分布 北海道石狩郡石狩町

調査及び記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
石 狩 - 石 狩	III (w) II f n

② 土壌区別説明

石 狩 統 - 石 狩 区

示 性 分 級 式 ( 畑 )

土	表	有	表	耕	(	(	(	土	(	(	自	(	(	養	(	(	障	(	災	(	傾	(	(	侵	(	(										
壤	表	効	土	表	表	表	土	透	保	濕	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵										
生	効	土	土	表	表	表	土	透	保	濕	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵										
産	土	土	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	理	物	的	害	水	風										
力	の	の	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	理	物	的	害	水	風										
可	厚	含	難	土	粘	乾	土	性	性	反	力	力	態	量	否	性	性	無	性	性	性	斜	向	斜	向											
能	深	易	性	性	性	性	性	性	性	反	力	力	態	量	否	性	性	無	性	性	性	斜	向	斜	向											
性	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	反	力	力	態	量	否	性	性	無	性	性	性	斜	向	斜	向											
等	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	反	力	力	態	量	否	性	性	無	性	性	性	斜	向	斜	向											
級	t	d	g	p	w	f	n										i	a	s	e																
Ⅲ	I	I	I	I	1	1	1	(Ⅲ)	1	2	(2)	Ⅱ	2	1	2	Ⅱ	3	2	1	1	2	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1	I	1	1	1

簡略分級式 Ⅲ(w)Ⅱ f n

A 土壤区の特徴

この土壤区は石狩統に属する。作土の厚さ20cm以上。全層粗粒質であるため過干のおそれが多く、肥料養分の流亡、溶脱が大きいのが特徴である。

B 植生および利用状況

畑と水田が点在しているが大部分畑地並びに未耕地も存在する。

C 地力保全上の問題点

過干防止のため優良粘土の客土または粗大有機物の施用を行ない、一方化学性改良のためには石灰、苦土その他塩基の補給を充分に行なうことが大切である。

D 分 布 北海道石狩郡石狩町

記載責任者 水 元 秀 彰 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和47年3月31日

### 3 保全対策区分及び説明

#### 1) 保全対策地区の説明

土壌断面形態、地形その他の立地条件ならびに土壌の理化学性の特徴から地力の保全、増強対策を検討の形果、下記の保全対策区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	主な対策
①原野保全対策地区	原野 美登江	550	1.全層泥炭 2.排水不良 3.有機物過多	粘土客土 (30~60m <sup>3</sup> /10a) の施用 珪カル (100~120kg/10a) よう燐 (80~100kg/10a)
②生振保全対策地区	美登位 発寒 生振	968	1.全層又は下部 グライ 2.排水並びに透 水不良	排水の完備 心土破碎又は弾丸暗渠…暗渠直角方向に施工 珪カル、よう燐の施用
③花畔保全対策地区	花畔西 生振中央 大曲 花畔 石狩	2,909	1.全層砂土~砂 壤土 2.透水性大 3.塩基の流亡 4.有機物不足	粘土客土 (30m <sup>3</sup> /10a) 珪カル、よう燐、有機物の補給
④茨戸保全対策地区	茨戸 茨戸南	288	1.排水良好 2.有機物不足	有機物の補給 珪カル、よう燐の補給
⑤春別保全対策地区	春別 高岡	870	1.下層堅密 2.透水不良 3.塩基不足	排水の完備、心土破碎、有機物補給 珪カル、よう燐、石灰の補給

#### 2) 保全対策地区別説明

##### <原野 保全対策区>

##### (1) 分布

市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
石狩郡石狩町	550	原野、美登江

##### (2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区は高位、中間、低位の全層泥炭土壌をとりまとめたものである。作土は客土又は火山灰と思われる腐植を持った土壌から成り、その厚さは15cm内外である。このため作土の浅い地帯ではトラクター等の農業機械の走行が困難である。作土層には泥炭の混入によりN供給力が大きく、水稻の生育も遅延型の傾向を取り品質の低下をきたす恐れがある。以上の事から粘土の客入、排水の完備、塩基の補給等が望まれる。

##### (3) 地力保全対策

対策の種類	対策地区及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
粘土客土 暗渠排水 珪カルの施用 よう隣の施用	原野 美登江	トラック運搬 渠間7~10m 渠深0.8~1.1m 春、雪上散布 同上	30~60m <sup>3</sup> /10a 土管又はハイゼックス 100~120Kg/10a 80~100Kg/10a	本暗渠施工の前に弾丸暗渠等による簡易暗渠施工が望ましい。 山土客土後には多量必要

<生振保全対策区>

(1) 分布

市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
石狩郡石狩町	968	美登位、発寒、生振

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区はグライ層が出現する土壌を取まとめたものである。一般に作土直下からグライ層が出現するものから50cm内外から出現するものも含まれる。全層強粘質で透水不良のものが多いが、中には粗粒な透水良好な土壌も含まれる。地下水位が高いため稲の生育もやや遅れ、品質の低下が予想される。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地区及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
暗渠排水 心土破砕 珪カル よう隣	美登位 発寒 生振	渠間7m、渠深0.8~1.1m 間かく3~6m 深さ0.4~0.5m 春雪上散布 同上	土管又はハイゼックス、モミガラ ウイング無干セル 100~120Kg/10a 80~100Kg/10a	施行は暗渠と直角方向に施行

<花畔保全対策区>

(1) 分布

市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
石狩郡石狩町	2,909	花畔西、生振中央、大曲、花畔、石狩

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区は全層粗粒質な土壌をとりまとめたものである。部分的にはやや地下水位が高く、黒泥層を持つものがあるが、いずれも透水性が大きく塩基養分等の流亡が大きい土壌である。このため水透生育は秋落的傾向を示すものとみられる。以上の事から粘土の客入、塩基の補給、有機物の補給が望まれる。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地区及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
粘土客土	花 畔 西	トラック運搬	30m <sup>3</sup> /10a	
珪カル施用	生振中央	春、雪上撒布	100~120Kg/10a	
よう磷施用	大 曲	同 上	80~100Kg/10a	
有機物の補給	花 畔 石 狩	稲ワラ、麦稈、堆肥	稲ワラ 300~400Kg/10a 堆肥 1~2t/10a	稲ワラ……水田、秋鋤込み 麦稈……畑

<茨戸保全対策区>

(1) 分布

市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
石狩郡石狩町	288	茨戸、茨戸南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区は地下水位が低く、極めて構造の発達が良好であり透水性の良い土壌をとりまとめたものである。一般にN地力の供給力がやや低い傾向にあり、水稻の生育もやや凋落型となりうる土壌である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地区及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物の補給	茨 戸	稲ワラ、堆肥	稲ワラ 300~400Kg/10a 堆肥 1~2t/10a	稲ワラ、秋鋤込み
珪カル	茨 戸 南	春、雪上撒布	80~120Kg/10a	
よう磷		同 上	80~100Kg/10a	

＜春別保全対策区＞

(1) 分布

市町村名	面積 (ha)	該当土壌区名
石狩郡石狩町	870	春別、高岡

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区は下層堅密、透水性が極めて不良な台地土壌をとりまとめたものである。塩基養分に乏しく、さらに下層堅密な重粘土壌であるため、過湿、過干の恐れが極めて大きい。このため暗渠排水、心土破碎等により過湿、過干の防止をはかる必要がある。さらに深耕により根圏域の拡大、塩基の補給、有機物の補給が大切である。

対策の種類	対象地区及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
暗渠排水 心土破碎 有機物の補給 塩基の補給	春別 高岡	渠間7m、渠深0.8～1.1m 間かく3～6m 深さ0.4～0.5m 完熟堆肥 炭カル又は苦土石灰	土管又はハイゼックス 大型機械使用 1～2t 1.0a よう燐 80/100Kg/1.0a	暗渠に直角方向に入れる



2) 土壤分析成績 (水田) 石狩町

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性											p H				
					炭 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における理学性 100cc 容 中						
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 ♀	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H <sub>2</sub> O	KCℓ
		1	1		23	24	31	543	574	233	193	CL						5.9	4.4	
		1	2		20	19	31	56.1	592	240	168	CL						6.3	4.7	
		1	3		23	17	1.1	455	466	325	209	CL						6.5	5.1	
		4	1		32	41	1.0	21.6	226	425	349	LiC						5.8	4.2	
		4	2		24	31	0.4	21.6	220	456	324	SiC						5.4	4.2	
		4	3		28	39	1.3	11.9	132	434	434	LiC						5.5	4.2	
		6	1		1.7	43	557	191	748	139	113	SL						6.3	4.6	
		6	2		15	43	506	192	698	155	147	SL						6.4	4.6	
		6	3		08	31	532	19.4	726	146	128	SL						6.6	4.9	
		6	4		62	204	163	28.1	444	297	259	LiC						5.7	4.3	
		7	1		1.0	58	624	19.7	821	103	76	SL						6.4	4.8	
		7	2		109	53	672	180	852	99	49	LS						6.5	4.9	
		7	3		1.2	20	720	18.0	900	70	30	LS						6.8	5.1	
		9	1		31	38	59	16.4	223	375	402	LiC						6.4	4.8	
		9	2		30	35	75	15.5	230	382	388	LiC						6.6	5.2	
		9	3		37	25	05	75	80	455	465	HC						6.9	5.0	
		26	1		158	84	720	17.0	890	73	37	LS						6.1	4.6	
		26	2		24	119	61.0	20.6	81.6	72	112	SL						5.9	4.6	
		26	3		80	44.4	295	25.9	55.4	159	287	SC								
		29	1		22	103	653	18.2	835	109	56	SL						5.8	4.7	
		29	2		22	90	624	17.9	803	122	75	SL						6.1	4.8	
		29	3		88	71.9	30	18.5	21.5	540	245	SiCL						5.5	4.5	
		38	1		46	60	11.5	18.2	29.7	329	37.4	LiC						5.4	4.2	
		38	2		61	32	17.6	22.7	40.3	31.9	27.8	LiC						6.0	4.4	
		38	3		57	22	2.5	33.1	35.6	31.7	32.7	LiC						5.8	4.3	
		51	1		49	131	16.4	31.3	4.77	30.2	22.1	CL						5.7	4.4	
		51	2		1.2	24	65.4	14.8	80.2	120	7.8	SL						6.4	4.9	
		51	3		109	41.9	0.8	3.1	3.9	35.2	60.9	HC						5.3	4.1	

化 学 性

置換酸度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩基置換容量 me/ 100g	置換性塩基 100g中			塩基飽和度 %	磷酸吸收係数	乾土 効 果	30°C NH <sub>4</sub> N 發生量		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	T-C %	T-N %	C/N		CaO mg/me	MgO mg/me	K <sub>2</sub> O mg/me				乾 土	湿 土	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> Bray 法	N	
	0.9	1.33	0.11		11.8	14.5	187/67				114/56	19/0.41	87.3	717	
0.4	1.11	0.08	13.6	15.0	215/77	121/6.0	22/0.47	94.0	51.0		4.2	11.2	1.10		
0.2	0.98	0.08	1.20	18.2	261/93	147/7.3	28/0.55	94.5	57.3		—	9.0	—		
2.8	2.40	0.22	11.1	21.1	255/9.1	140/6.9	23/0.48	78.0	8.68		12.4	1.68	1.37		
2.5	1.78	0.16	10.9	22.0	264/9.4	153/7.6	18/0.39	79.2	8.61		8.8	1.40	1.16		
3.4	2.25	0.21	11.0	22.8	264/9.4	146/7.2	17/0.37	70.1	8.23		—	13.2	—		
0.9	2.46	0.19	1.27	1.29	108/3.9	48/2.4	17/0.37	51.2	6.71		9.2	4.62	0.78		
0.9	2.46	0.18	1.34	1.49	88/3.1	37/1.8	11/0.23	3.49	4.26		5.4	3.23	0.88		
0.3	1.82	0.13	1.39	7.0	71/2.5	30/1.5	12/0.25	61.2	2.62		—	3.6	—		
1.9	11.76	0.79	1.49	40.0	305/10.9	105/5.2	48/1.01	4.29	11.08		—	11.4	—		
0.4	3.31	0.17	1.93	1.08	105/3.7	29/1.4	11/0.23	4.98	5.45		4.5	1.32	0.80		
0.3	3.06	0.17	1.82	1.65	113/4.0	26/1.3	10/1.12	3.37	5.61		7.2	1.26	0.89		
0.2	1.17	0.07	1.66	8.7	123/4.4	25/1.2	17/0.35	6.88	4.66		—	6.0	—		
0.9	2.21	0.21	1.07	2.21	333/11.9	131/6.5	23/0.47	8.51	5.57		8.0	1.20	1.48		
0.2	2.00	0.20	1.02	2.21	38/1.34	158/7.8	23/0.47	9.81	8.25		6.8	1.10	1.66		
0.2	1.46	0.16	9.4	2.41	370/13.2	253/12.6	28/0.59	10.94	6.85		—	3.8	—		
0.9	4.89	0.32	1.53	1.66	127/4.5	55/2.7	11/0.23	4.51	5.94		10.4	2.38	1.03		
1.3	6.90	0.48	1.43	1.79	135/4.8	43/2.2	7/0.14	3.98	7.18		11.6	1.98	0.97		
	25.62	1.20	2.14	4.50	354/12.6	140/7.0	15/0.32	4.42			—		—		
0.6	5.96	0.38	1.58	1.55	160/5.7	45/2.2	15/0.32	5.34	5.11		8.7	1.48	1.81		
0.4	5.20	0.36	1.45	1.55	175/6.2	31/1.5	13/0.28	5.18	6.13		8.3	1.02	1.74		
1.3	41.52	2.11	1.97	7.45	714/25.5	186/9.2	12/0.26	4.69			—	1.4	—		
2.8	3.44	0.32	1.06	2.55	282/10.1	91/4.5	7/0.15	5.76	10.48		2.35	4.2	2.39		
0.8	1.84	0.18	1.02	2.68	367/13.1	133/6.6	6/0.13	7.38	10.65		7.0	1.0	2.44		
1.0	1.27	0.11	1.26	2.64	363/12.9	158/7.8	10/0.20	7.93	9.54		—	1.8	—		
1.6	7.96	0.53	1.51	3.07	250/10.6	117/5.8	24/0.50	5.50	7.15		1.67	2.08	0.92		
0.4	1.41	0.11	1.26	5.8	62/2.2	24/1.2	10/0.21	8.01	4.25		3.9	2.8	0.89		
4.1	24.21	1.81	1.34	6.08	310/11.1	136/6.7	33/1.76	3.20			—	3.4	—		

2) 土壤分析成績 (水田) 石狩町

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性											P H				
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における 100cc 理学性 容 容 容 容 容 積 積 積 積 積 重 重 重 重 重 g cc cc cc cc					H <sub>2</sub> O	KCl
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %		
		59	1		34	87	298	349	647	198	155	SCL						55	42	
			2		11.1	866	-	-	-	-	-	-						50	42	
			1		32	41	67	237	304	386	310	LiC						55	41	
		61	2		39	46	65	216	281	404	315	LiC						56	42	
			3		35	36	53	275	328	364	308	LiC						52	39	
			1		47	49	180	276	456	230	314	LiC						55	40	
		62	2		51	53	243	365	608	147	245	SCL						53	42	
			3		164	170	08	69	77	228	695	HC						56	43	
			1		41	149	173	286	459	284	257	LiC						56	43	
		64	2		11.8	899	55	70	125	445	430	LiC						50	40	
			1		25	75	660	169	829	102	69	SL						61	47	
		71	2		29	78	662	174	836	95	69	SL						61	46	
			3		1.8	1.6	89.4	82	97.6	24	0	S						63	49	
			1		38	87	313	241	554	224	222	CL						62	46	
		77	2		25	29	82.1	127	948	28	2.4	S						63	45	

化 学 性

置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 100g 中			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 効 果	30 NH <sub>4</sub> -N 發生量		有効態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
	T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	C/N				乾 土	湿 土	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N	
	%	%			mg/me	mg/me	mg/me						Bray 162法		
31	502	029	173	243	235/84	73/36	21/043	51.2	725		20.1		11.4		0.90
63	5006	1.23	408	62.6	305/109	159/79	8/0.16	30.2			300		1.0		1.33
41	240	020	122	19.6	211/75	100/50	15/030	100.6	950		108		11.0		1.24
25	264	021	127	200	228/81	120/59	8/0.18	71.2	1124		104		10.4		1.22
125	207	018	118	18.6	136/48	71/35	9/020	46.1	767		—		3.8		—
60	279	021	135	19.7	188/67	43/22	8/0.18	45.9	806		12.4		7.2		1.69
34	308	023	135	189	200/7.1	67/33	8/0.18	56.4	704		14.4		5.8		1.48
25	979	075	131	37.9	338/12.1	136/68	10/0.22	50.3	973		—		3.0		—
22	860	062	140	27.1	252/9.0	105/52	8/0.18	53.0	1043		17.0		12.8		1.14
50	5195	298	17.4	56.0	114/4.1	23/1.1	7/0.14	9.5			1030		1.8		1.96
06	430	026	168	17.3	144/5.1	50/25	11/0.24	45.1	800		3.8		23.4		0.43
09	452	028	163	15.9	113/4.0	35/1.8	9/0.20	37.4	783		3.4		20.4		0.47
04	097	005	190	05	29/1.0	18/0.9	5/0.10	44.40	753		—		10.4		—
09	502	028	179	23.3	242/8.6	125/6.2	15/0.30	64.8	645		10.4		10.0		0.64
22	166	009	180	10.0	49/1.7	21/1.0	5/0.10	28.8	1005		1.9		8.4		0.23

2) 土壤分析成績(畑) 石狩町

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 号	層 位	深 さ cm	理 学 性											pH				
					礫 (風乾物中) %	風乾細工中		細土無機物中					土 性	現地における理学性 100cc 容 中					H <sub>2</sub> O	KCl
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 %	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %		
		43	1		17	32	40	404	444	328	228	CL						55	39	
			2		23	18	12	416	428	504	68	SiL						57	40	
		46	1		3.1	83	89	17.7	26.6	345	389	LiC						58	46	
			2		32	30	16	17.4	19.0	41.7	393	LiC						55	38	
			3		29	13	11	16.6	1.77	43.1	392	LiC						55	38	
		82	1		28	59	37.4	243	61.7	18.1	202	SCL						58	45	
			2		33	59	39.7	233	63.0	18.0	190	SCL						58	46	
			3		29	16	42.1	232	65.3	15.4	193	SCL						63	42	
		83	1		5.8	3.0	7.63	128	8.91	67	42	LS						66	49	

化 学 性															
置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 100g 中			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 効 果	30°C NH <sub>4</sub> -N 発 生 量				遊 離 酸 化 鉄 %
	T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾	湿	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> Bray % 2法	N	
	%	%			mg/me	mg/me	mg/me				土	土			
94	1.82	0.15	11.9	11.6	88/32	35/17	8/0.17	434	203		122		36		-
100	1.05	0.08	12.9	12.5	100/36	60/30	8/0.17	540	266		22		32		-
08	4.80	0.39	12.2	23.7	379/135	48/24	19/0.39	687	660		125		360		-
97	1.71	0.14	11.9	17.6	188/67	31/15	8/0.18	475	517		34		60		-
100	0.75	0.08	9.1	13.6	168/10	58/29	7/0.14	662	227		-		30		-
04	3.41	0.22	15.8	14.6	159/57	59/29	8/0.17	599	617		100		60		222
04	3.42	0.22	15.8	17.0	154/55	41/20	2/0.04	443	1179		105		60		254
34	0.98	0.06	15.8	12.0	199/7.1	85/42	5/0.12	950	865		-		32		-
02	1.87	0.15	12.6	8.4	51/1.8	17/0.8	23/0.49	372	510		11.7		148		-